

平成二十八年入学選抜学力検査問題

九時—十時三十分

地域デザイン科学部志願者

コミュニケーションデザイン学科を志願し、国語を

選択した者

教育学部志願者

学校教育教員養成課程(学校教育・特別支援

教育系、教科文系)を志願し、国語を選択し

た者

農学部志願者

農業経済学科を志願し、国語を選択した者

国語(国語総合)

(本文 13ページ)

〔注意〕

1. 検査開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけない。
2. 「受験番号」は、解答用紙の受験番号欄に忘れずに記入すること。
3. この冊子には、三問題ある。落丁、乱丁、印刷不鮮明の箇所があった場合は、申し出ること。
4. 解答は、必ず解答用紙の所定の解答欄に記入すること。所定の欄以外に記入したものは無効である。

第1問

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

(この部分は、著作権の都合上、公開できません。)

(この部分は、著作権の都合上、公開できません。)

(この部分は、著作権の都合上、公開できません。)

(柳父章やなぎちやうの文章による)

注 テクニカル・ターム＝術語、専門用語のこと。

問1 傍線部①～⑤のカタカナを、それぞれ漢字で記せ。

問2 傍線部⑦「翻訳という仕事が、非常に難しくなる」とあるが、それはなぜか。わかりやすく説明せよ。

問3 傍線部⑧「現実に密着した言葉」とほぼ同じ意味で使われている語を、本文中から抜き出せ。

問4 傍線部㊦「出来合いのまま、完成品として受けとめてきた」とあるが、それはどのようなことを指すか。本文中の言葉を使って説明せよ。

問5 傍線部㊧『言葉』のこのような現象」とは、どのような現象を指すか。「言葉」の意味に注意しながら、わかりやすく説明せよ。

問6 傍線部㊨「その過不足の程度が、無視できないほどに大きい場合」とあるが、この場合、筆者はどうすべきだと考えているか、説明せよ。

第2問

次の文章は久生十蘭ひさお じゅうらんの小説「生霊いきりょう」(一九四一年)の一節である。画家である松久三十郎は旅先の飛驒ひだで出会った女性・君子から、君子の戦死した兄・関原弥之助の「お精霊しやうれい」となつて祖父父母のもとを訪ねてくれるよう、依頼される。絵画の道を志していた関原弥之助は、日中戦争で戦死したが、偶然にも彼は松久三十郎にまるで生き写しだといふのである。次の一節を讀んで後の問いに答えよ。

(この部分は、著作権の都合上、公開できません。)

(この部分は、著作権の都合上、公開できません。)

(この部分は、著作権の都合上、公開できません。)

(この部分は、著作権の都合上、公開できません。)

(この部分は、著作権の都合上、公開できません。)

(久生十蘭「生霊」による。なお設問の都合で原文を一部省略・改変したところがある。)

注1 襦袍どてら||綿を入れて仕立てた広袖ひろそでの和服。

注2 お迎火むかえび||盂蘭盆うらぼんの行事のひとつとして、夕方に死者の精霊を迎えるために、家の前で火をたくこと。

注3 お齋とき||仏事で出す食事。

注4 覚束いぶせじない||うまくいかない。

注5 婆刀ばと自とじ||老夫人。老婦人。

注6 滕とう城けんじょう||日中戦争の台兒莊たいじそうの戦い(一九三八年)で両軍の攻防戦が繰り広げられた中国・山東省さんとうしやうの戦場のひとつ。日本軍も多く犠牲者を出した。本作の松久三十郎は、関原弥之助が准尉として戦死したこの戦いの後、偶然にもその戦

場跡を訪れたことがあるという設定になっている。

注7 一里||距離の単位で、一里は三・九二七三キロメートル。

注8 トーチカ||堅固に作られた、防御のための小型の要塞。

問1 傍線部①⑤の漢字の読みを、それぞれひらがなで記せ。

問2 傍線部㉑「自分の心が太古の巫術ふじゆつの世界へ引込まれて行く」とはどういうことか、わかりやすく説明せよ。

問3 傍線部①「ひよつとすると噴き出すかも知れないぞ」とあるが、松久三十郎が当初このように心配していたのはなぜか、簡潔に説明せよ。

問4 傍線部㉒「内心、にわかに襟えりを正したいような厳肅な気持になってきた」とあるが、このときの松久三十郎の心情を説明せよ。

問5 傍線部㊦「これも吸取るような眼つきで三十郎の顔を見詰めている」とあるが、このときの君子の心情を簡潔に説明せよ。

問6 傍線部㊧「遮二無二」の語義を記せ。

問7 傍線部㊨「自分がそこでそうしたように、しっかりした記憶の中から思い出されて来るのだった」とあるが、ここでの松久三十郎の心情を説明せよ。

第3問

次の文章は、『無名草子』の中の一節である。女房達が数名集まって話をしているところにある老尼が立ち寄り、請われて経文を一通り読み終えた場面から始まっている。これを読んで、後の問いに答えよ。

一部読み果てて、^(注1)「滅罪生善」^(注1)など数珠おし擦りて、「今は休みはべりなむ」とて寄り臥しぬれど、この人々はるて、さまざまのそぞろごとども言ひ、経の、よき、悪しきなど褒めそしり、花、紅葉、月、雪につけても、心々とりどりに言ひあへるも、いとをかしければ、⁽⁷⁾つくづくと聞き臥したるに、三四人はなほるつつ、物語をしめじめとうちしつつ、「さてもさても、⁽⁸⁾何事かこの世にとりて第一に捨てがたきふしある。おのおの、心におぼされむことのたまへ」と言ふ人あるに、(中略)

「何の筋と定めて、⁽⁹⁾いみじと言ふべきにもあらず、あだにはかなきことに言ひ慣らはしてあれど、夢こそ、あはれにいみじくおぼゆれ。遥かに跡絶えにし仲なれど、^(注2)夢には関守も強からで、もと来し道もたち帰ること多かり。別れにし昔の人も、ありしながらの面影を定かに見ることは、⁽¹⁰⁾ただこの道ばかりこそはべれ。^(注3)上東門院の『今はなき寝の夢ならで』と詠ませたまへるも、いとこそあはれにはべれ」など言ふ人あり。

注1 滅罪生善めつざいしやうぜん 経文を読み終えた時に唱える言葉。

注2 夢には関守も強からで 〓 人知れぬわが通ひ路の関守は宵々よひよひごとにうちも寝ななむ」という、『伊勢物語』中の、在原業平ありわらのなりひらの歌を踏まえている。

注3 上東門院じやうとうもんゐん 〓 藤原彰子。一条天皇の中宮。

問1 傍線部㉞「つくづく」と聞き臥したるに」とあるが、老尼がそうした理由を説明せよ。

問2 傍線部㉟「何事かこの世にとりて第一に捨てがたきふしある」を、現代語訳せよ。

問3 傍線部㊱「いみじと言ふべきにもあらず」について、「いみじ」「べき」「あら」の品詞名と活用形を、それぞれ答えよ。

問4 傍線部㊲「この道」とは何か、答えよ。

問5 傍線部㊳「今はなき寝の夢ならで」とあるが、これは中宮彰子が一条天皇の崩御を悲しんで詠んだ「^よ逢ふことも今はなき寝の夢ならでいつかは君をまたは見るべき」(『新古今和歌集』)という歌のことである。この歌全体を、使われている掛詞の意味がわかるように留意して、現代語訳せよ。

問6 二重傍線部「夢こそ、あはれにいみじくおぼゆれ」とあるが、その理由を本文の内容に即して具体的に説明せよ。